

平成 28 年度 第 2 回 稲城市海外姉妹都市検討市民会議 作業部会
議事録 【要点記録】

【開催日時】平成 28 年 8 月 30 日（火） 午後 7 時から 9 時 50 分

【会 場】稲城市役所 6 階 602 会議室

【出席者】■委員；出席者 6 人

- ・ 稲城市体育協会（中家 敬士氏）
 - ・ 稲城市教育委員会（城所 正彦氏）
 - ・ 稲城市青少年育成地区委員会正副委員長会（石橋 良生氏）
 - ・ 稲城国際交流の会（藤田 佑二氏）
 - ・ 公募市民（原 忠男氏）
 - ・ 公募市民（小山 良夫氏）
- <欠席>稲城市農業委員会（松本 一宏氏）

■行政

- ・ 事務局 4 人（企画部長（武藤 路弘）、企画政策課長（柴田 光洋）、
企画政策課計画調整担当係長（井田 聡）、企画政策課主事（新津 伸偉）

【開会】

部 会 長：皆さんこんばんは。夜分お疲れのところ、また足元が悪い中、お越しいただきましてありがとうございます。本日、作業部会第 2 回目になりますので、前回の会議も踏まえながら、進めていきたいと思えます。それでは、平成 28 年度第 2 回稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会を開催いたします。まず初めに、事務局より、配布資料の確認をお願いします。

井 田 係 長：それでは、配布資料の確認をさせていただきます。本日お手元に配布しておりますものは 9 点になります。

- ①次第
- ②資料 1：平成 28 年度 稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会名簿
- ③資料 2：平成 28 年度第 1 回海外姉妹都市検討市民会議作業部会
(平成 28 年 7 月 28 日開催)
- ④資料 3：稲城市民の海外転出入状況及び在住外国人について
(平成 28 年 8 月 30 日修正版)
- ⑤資料 4：過去 3 年間の稲城市民の海外転出入状況【詳細版】
- ⑥資料 5：稲城市民の持つ海外ネットワークの調査結果
- ⑦資料 6：全国の海外姉妹都市・友好都市の成功事例（委員提供資料要約版）
- ⑧資料 7：フォスターシティ市の意向について
- ⑨座席表

こちらは、委員の方も、傍聴されている方も同じ資料をお配りしております。過不足等は

ございませんでしょうか。

【次第1】 前回のまとめについて

部 会 長：次第1『前回のまとめ』について、事務局から説明をお願いします。

柴 田 課 長：『前回のまとめ』についてご説明差し上げます。資料2をご覧ください。

〔資料2：『平成28年度第1回海外姉妹都市検討市民会議作業部会（平成28年7月28日開催）』に基づいて説明〕

部 会 長：説明が終わりました。何かご質問はございますでしょうか。

<質疑なし>

部 会 長：よろしいでしょうか。

<「はい」という声あり>

【次第2】 稲城市民の海外転出入状況について

部 会 長：続きまして、次第2『稲城市民の海外転出入状況について』について、事務局から説明をお願いします。

井 田 係 長：次第の2『稲城市民の海外転出入状況について』について、私からご説明差し上げます。資料3をご覧ください。

〔資料3：『稲城市民の海外転出入状況及び在住外国人について（平成28年8月30日修正版）』に基づいて説明〕

- ・前回の作業部会で示した本資料の数値にデータの混入があったことが分かったため、訂正をしたもの。

続きまして、資料の4をご覧ください。前回の会議で、海外への転出入のデータについて、もう少し中身を詳しく知りたいというご意見がありましたので、市民課で把握できている情報の限りで、集計をしたものになります。

〔資料4：『過去3年間の稲城市民の海外転出入状況【詳細版】』に基づいて説明〕

部 会 長：事務局より説明がありました。何かご質問はございますでしょうか。

委 員：前回、転入の方が随分多いという話題が出たと思うのですが、今回、転出の方が多いという事で逆転しているので、これはまた我々のイメージを少し変えなければいけないということです。まあ、大きい違いはないです。それから、前回の資料とは違い、タイへの転出が随分上位になり、2番目になっています。タイとの関係は、転入も含めて強まっているのかと、特に稲城に関しては、何かあるのかというところも面白いと思いました。

また、年齢のデータについては、本当にそうなのかという気もするのですが、まだ、学齢期の小学校くらいの子どもは、みんな連れて行くけれど、中・高生になると教育は日本

でというように、皆単身赴任になる傾向もあるので、どうしても0～9歳が多くて、10～19歳が下がってくる傾向が見受けられます。20～29歳になると今度本人が主体で出て行くということもあります。

柴田課長：細かく見て行きますと特徴的なところもあり、転出・転入という部分では、アメリカ合衆国については、0～9歳、10～19歳の人数が結構多く、30～40歳、40～49歳の世代と子どもの世代がセットになって異動しているのですが、中国の場合は、子供が少なく、その代わり、30～40歳、40～49歳に加えて、50～59歳という世代の異動が多くなっています。

委員：中国の場合は、日本のリタイアした人に対する技術要求というのが昔からあり、会社をいったん離れてシニアの技術者として行くケースが以前からずっと続いています。

委員：タイの転入・転出が信じられない数字になっていると思います。市民課で出している毎年の国籍別・年齢別・男女別の人員調査の資料を見ると、転入・転出の数字がこんなに多いのか疑問に思います。そうであれば、在住外国人の数字自体がもっと多くなって然るべきだと思います。

柴田課長：在住外国人の数字は、稲城市に住んでいる外国人、タイ人の方の数字です。一方、海外への転出・海外からの転入の数字については、日本人の方が海外へ、タイへ行った、タイから帰ってきたという数字で、全て日本人になるため、ストレートに一致するものではありません。

委員：わかりました。

部会長：その他に何かありますでしょうか。

<質疑等なし>

【議題1】稲城市民の持つ海外ネットワークの調査結果等について

部会長：それでは、議題1『稲城市民の持つ海外ネットワークの調査結果等について』、事務局より説明をお願いいたします。

柴田課長：前回の作業部会において、委員からご提案をいただきました、稲城市民の持つ海外ネットワークの調査を実施しましたので、その報告になります。

〔資料5『稲城市民の持つ海外ネットワークの調査結果』に基づいて説明〕

続きまして、資料6をご覧ください。こちらは、前回の部会で委員から資料提供のありました、全国の姉妹都市・友好都市の成功事例の資料につきまして、事務局の方で、一覧表に整理したものになります。

〔資料6『全国の海外姉妹都市・友好都市の成功事例（委員提供資料要約版）』に基づいて説明〕

部会長：資料として、新たなデータが出てきました。とても参考になっていくと思います。この調査では49人の方から回答をいただき、海外の経験が豊富な方からのご意見が多いと思いますが、留学や業務で海外に行ったというような形でデータがまとめられています。4ペ

ージには、どのような交流が良いかの回答があります。こちらは、前回の作業部会でお配りした市民会議の「主な意見の分類」の交流事業の中に、この部分はかなり含まれていると思います。交流事業の理由としては、青少年や子どものために交流をした方が良いという意見が多くなっていると思います。

また、前回の作業部会では、「フォスターシティ市を候補地として検討し、他に候補地もあれば並行して議論して行きましょう」ということが決まりました。そのことを踏まえて、この資料を基に、フォスターシティ市と並ぶような他の候補地があれば、その候補地を挙げていただきながら、なおかつ、このデータの中から、どういう風な形で実際に交流をしたら良いかという意見もあれば、皆様からお伺いしたいと思います。

委員：この調査の提案者として、先ほどの事務局の説明に少し補足して、若干コメントを加えて述べたいと思います。まず、対象者の稲城国際交流の会の会員の方の回答数は、昨夜1名加わって最終的に31名になりました。調査については、8月11日に発送して、10日あまりで回収し、稲城国際交流の会においては、約3分の2の会員から回答が帰ってきています。こういうテーマで関心が高かったからと思われる。なお、この表にまとめてあるのは、稲城国際交流の会の方と、ICカレッジの方と両方を合わせた数値になっています。私の方では、稲城国際交流の会の方の回答の中身については、集計をして、それなりに分析して進めている所ではありますが、ICカレッジの方々の色々なキャラクターと、稲城国際交流の会の方のキャラクターとでは違いがあり、それなりの特徴が出ています。この資料では単純に項目ごとに集計をしていますが、実際には答えがQ1からQ4で全部が繋がっています。例えば、ご自身が海外経験をお持ちで、しかも家族やそういう方々も海外へ行ったことのある方については、Q4の交流事業の提案の質問については、かなりたくさん書いていただいています。一方、海外経験の全くない方は、Q4まではあまり書いていません。当然かもしれませんが、やはり海外で自分が経験を持っており、家族も海外へ行っている方については、国際交流・姉妹都市への関心が非常に高いということです。今回の調査で、このように関心を持たれている方もかなりいるということで、そういう人たちの意見がなるべくこの議論に反映されないと、やはり市民の議論にはなっていないということが、確認できたのではないかと思います。

調査質問ごとに、コメントを加えて行きたいのですが、まずQ1、「あなたは、海外で長期に(継続して1年以上)滞在したことがありますか」という方については、留学、就学というのは、アメリカ、イギリス、ロシア、そこにほぼ集中しています。稲城国際交流の会の方は、もちろん社会人になってから参加する人がほとんどですので、答えた方というのは、あまり若い人はいません。つまり、そういう方々がかつて留学や修学をしたところが、アメリカやイギリスだったということです。一方、業務で海外へ行った人は、中国を始め、ヨーロッパ、ベルギー、ポーランド、ハンガリーやアジア諸国など、かなり行先が広がっています。これは、日本がどのように世界で活動をしているかということの縮図が、数は小さいですけど、この中に表れていると思います。一部ロシアが1名いますが、勉学はやはり欧米で、実際の仕事は途上国及びヨーロッパや中国とか、そういうところに集中しているということが表れています。

続いてQ2の家族の海外滞在経験の質問を見ますと、これまた非常に面白い様子が表れ

ています。就学、留学で行っているのは、やはり親に付いて行って、現地の学校で勉強するというケースがあるので、アメリカに限らず、ヨーロッパ、スペイン、フランス、ハンガリー、中米でも結構ベネズエラ、メキシコとかその他の地域が現れています。やはりこの辺でも、安全性とか、現地で日本人学校がある場所へは連れて行く傾向が強く、それがないときにはインターナショナルスクールがある場所ということで、そうするとなかなか辺鄙な途上国に連れて行くことは難しいということです。また、高校以降の就学は日本に戻すという傾向が強く出ています。このように、シニア世代の人達の就学が欧米に集中していたことと比べると、さらに広がりを持った状況になっています。また、業務についても、やはりかなり大きな広がりを持って、欧米、アジアへと広がっているということもあります。また、結婚したり、結婚していなくてもそこに在住し、現地で活躍している方もかなりいて、このケースはアメリカ、カナダ、フランスとやはり欧米が中心になっていて、Q1の集計と、家族や親戚の関係のQ2の集計では、広がりが随分違ってきています。そのため、これから将来に向かって、どのような形で国際化が進んで行くかというの、少し方向性が見えるような感じがします。単純に欧米志向というような考え方は、もう現在の若い世代では、そういう状態ではなくなりつつあります。我々も議論するときは、その辺も見据えてやらないと、自分の限られた経験の中でというような考えでは間違いが起きるのではないかと思います。

3ページ目は、具体的な稲城市と姉妹都市関係を結ぶと良いと考えられる都市がありますかという推薦の質問になります。これは中身を見ると面白いのですが、実は稲城国際交流の会の方の推薦から出たのは、アメリカ合衆国のユージンとバーリントンの2つと、中華民国、イギリス、ハンガリー、ロシアです。一方、稲城 IC カレッジの方は、中国の2都市を書かれています。これもカテゴリーの違いが出ていて面白いと思いました。これら回答については、当然、これから可能性があるかどうかを詰めるという作業がかなり多くなると思います。姉妹都市関係を結ぶ可能性も中くらいまで、キーパーソンについてはまだあまり明確になっていない。これはある意味当然です。今までそういう形での見方を進めていないわけですから、逆に言いますと、この辺は、割合短期の内に確認も可能だし、進めることもできるのではないかと思います。やり方を考えれば、つまり、今、もう進んでいるから、それを調べなければいけないという話ではなく、そういう良さそうな場所があれば、「稲城と友達になりましょう」というような発想になるのですが、そういうものを日本の在外公館を通じて投げたり、もしくは、日本にある海外の大使館とか領事館とか、そういうところを通じて探りを入れて打診をすることによって、この辺の可能性はかなりはっきり分かってくると思います。ですから、聞いた時点でこの辺がはっきりしていないのは、ある意味当然です。どのくらい時間がかかって、どういう手続きが必要なのかというのは、議論すればすぐ出てくる話なので、現状の回答の内容で、「キーパーソンが誰もいない、進まないのではないかと」という話にするのは、折角稲城という非常にユニークないろんな資源を持った自治体が相手を探しに行くのに、もったいないと思いますし、拙速ではないかと思います。やはり、色々可能性を探った上で、揃えて、さあどうしましょうか、という形をとるのが良いのではないかと、改めて感じたところです。

ちなみに、ここに出てきている国は、ヨーロッパ及び中国、中華民国も中国の類だとし

て、ロシアは少し異質で出てきていて、この人は留学した経験を持った人ですが、つまりこの第3番目の質問については、種を探している訳です。私はこの種を、今まで色々なところに行かれたけれど、姉妹都市という視点で今まで見ていなかったから、聞かれてすぐ挙げるのはと戸惑いをしている人もいると思っています。これもよく話をしてみると色々な可能性もでてくるという点で、これに限る必要はないという風に思ったところです。

最後のQ4の海外の都市と姉妹都市関係を結んだ場合に、どのような交流をしたらよいかという質問については、これは、だいたい、1番から13番、19番は、稲城国際交流の会のメンバーが書かれたもので、14番から18番、これがICカレッジから出た回答です。その辺は資料には書いてないのですが、これについても実は、最終的に、事務局の方で分類ということで、ホームステイ、スポーツ、文化など分けていただいたのですが、これが必ずしも良いものかどうかというのが、これを見たとき疑問に感じました。これは既存のカテゴリーにすれば「これは文化交流になる」、「これは教育交流になる」となるのですが、実はこの一つ一つの意見、それと何故それがいいのかというのは、背景になる自分たちの経験や思いというのが含まれていて、それが全部繋がっていて、ここに行って、家族もこういう風になって、そして、ここでは候補地としては今一つそこまで出せるか分からないけれど、もしやるとすればこういう交流がある、つまり、横の繋がりを見ながらじっくり味わわないと、ただ数字として扱ってしまうと、だいたいこれはホームステイですね、これはスポーツ交流になりますね、こういう分け方では、本当の意見をくみ上げたことにはならないと思います。この最後の所の活かし方、これは我々の力量次第ではないかと思えます。一つ一つを読んでいくとなかなか味わいのあることを言っておられて、これをどれだけ読み込めるかは委員の人達のキャパであり、事務局のキャパでもあります。ただ書かれたのをどこかに分類して入れたからいいという話ではないということ。つまり、こういう意見を単純にアンケートで答えてくださいと言った時の、書いて下さるこの気持ちというのはどこにあるのかということをしつかりと受け止める必要があると思います。

最後のその他の意見では、少し批判的な意見もいくつか見られます。姉妹都市自体も、目的や意味が分からないというところから始まって、本当にこういうことでいいのかという意見や、これもとても大事な指摘がいくつか見られます。これを切り捨ててしまうのか、きちんと受け止めて我々がディスカッションの種にできるか、こういうところに力量が問われるところではないかと思えます。

もう一つ、我々、稲城国際交流の会は31名の方から返事をいただいたわけですが、これは会としてはフィードバックするつもりでいまして、フィードバックするだけではなく、会の中でできるだけ議論を進めていきたいと思うところです。というのは、アンケートというのは、ただアンケートを投げてもらったら終わりというのではなく、これを基にどのくらい議論を深められるかで意味があるということです。ですから、それを近いうちにやろうと考えているのと、後でご説明させていただきますが、これだけにとどまらず、もう少し、色々な市民が持っているポテンシャルを調べていくような実態調査をやらないと、やはり表面的な議論に終わってしまう危惧がありますので、後程ご提案させていただきます。

部 会 長：このデータについての細かいお話をいただき、また、さらに一つ掘り下げてという話もあ

りましたが、皆様のご意見はいかがでしょうか。

委員：稲城国際交流の会でデータを集めた訳なのですが、年代によってかなり違う回答の結果が出ています。例えば、家族という視点で言いますと、私や妻だとかは長期に海外に行ったことがありませんが、その子どもになると海外経験を持つ人が2名います。そのまた子ども、孫、姪の子どもになると、11名中9名が留学もしくは業務で実際に海外に行っています。そういう実態で、それはどこの場所なのかというと、かなり我々の認識と違うと感じました。

それから、今言いましたように、アメリカやイギリスなどを含めての欧米圏に海外姉妹都市を設けてという考え方も一つあるのですが、年代によって、今ある業務だとか仕事については、むしろそれよりも成長率とか、今仕事でどういうところと取引されているかという視点ではまったく違う感じになっています。具体的に言いますと、皆の要望の中で、語学の勉強をするという事だったらアメリカ合衆国という考え方をして、アメリカを選んで行こうということも分かりますが、例えば、タイやフィリピン、あるいはベトナムとか、そういうところに、今、日本の我々シニアも含めて、英語の勉強に行くという傾向が随分増えています。それがなぜかと言うと、フィリピンの例では、日本の物価のだいたい5分の1で実際に行けます。一方、ネイティブの言語を理解するためには、いわゆるアメリカから学ぶよりはフィリピンの人が教える学校で学ぶ方が日本人にとっては上達が早いということがありますので、そういうような国も、語学の勉強の機会も、どういう世界にあるかということになると、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダに限らず、そういう国を選んで良いと思います。こういう現実がこの数年起きていて、商売とか、いわゆる経済成長ということもあるのですが、これからの商売の対象としては、ずっと可能性が高いと思います。結論的に言いますと、今の話が一つ、それと治安の問題、モラルの問題、親日的であるか、稲城に対して魅力を感じてくれているか、それは文化、芸術、観光、環境関係、そういう様な分野になろうかと思えます。それともう一つ、飛行場が近くにあるかどうか、そういうような条件で、例えばアメリカを選ぶのも、フォスターシティ市も非常に有望だと思うのですが、その他に東南アジアというのも候補の一つ入れて、二つ両輪で、実際にはお金の問題もありますので、検討したらどうかと思います。

部会長：貴重なご意見をいただいたのですが、実際問題として、今、ここで我々がこの市民会議の中である程度方向付けをしなければいけない中で、3回の作業部会で結論を出すという形で現在動いています。今言ったお話の中で、そういう東南アジアの方との交流も必要ではないか、また、色々と英語圏だけではなくても、他の所でもいいのではというご意見もありました。いずれにしてもここで、冒頭にお話ししましたようなフォスターシティ市が稲城市の結論待ちということになっていきますので、その辺を踏まえながら、進めていかないと本会議の時までに、議論がまとまらないのではと思います。フォスターシティ市について、前回ありましたように、交流事業として、アンケート結果では文化交流が多かったのですが、そういった交流を主としながら、それとプラスしてできるような候補地を挙げるというような形で、本会議に持っていきたいのですが、どうでしょうか。

委員：今のご発言に関連してですが、折角こういう調査をやったので、まず皆様方にこの調査をやったことについての議論を少し深めていただきたいと思います。それから、フォスター

シティ市については議題2で説明があると思いますので、今ここでは、それを出して議論を切るというのは、正しい方法ではないと思います。それから3回しか部会をやらないと言いましたが、必要に応じて回数を増やすことは可能ではないのでしょうか。

柴田課長：3回というのは、一つの目安としてお話をしていきまして、市民会議の中でご説明しました通り、少なくとも、多くも、回数の変動は可能です。

委員：今までの市民会議や作業部会では、限られた人の、限られた経験しか出ていなかったのですが、この調査によりもう一步広がって、少なくとも49名の方から回答をいただいて、その答えがこの中にある程度凝縮されていると思います。折角取っ掛かりが一つできた訳ですから、集約の方向に持っていくのではなくて、これについて皆さんのご意見を伺って、これをどう考えたらいいか、これはあまり重要ではないということなのか、その辺を是非、議論していただきたいと思います。

委員：今お話しを聞かせていただいて、私と違い、御二人の委員は非常に海外の経験があり、海外に対する見識があるので、議論が非常に深いです。しかし、市民会議の一員として思うのは、市民は、海外に見識が深い方ばかりではないところです。私のように単純に物事を考える人間には、議論として難し過ぎると思いました。非常に立派な資料ですし、良くまとめられているのは分かりますが、前回もお話した通り、私はもう少し、絞り込んだ議論をしたいと思います。また同じような資料が出てきて、確かに興味深い資料ではあるのですが、じゃあ、何が新しいかと言えば、このネットワークの海外滞在の部分だけではないかと思えます。Q3の姉妹都市関係を結ぶと良いという都市についても、だいたい既に出てきている都市ですし、その次の交流の仕方についても、あまり目新しいものはないような気がします。ですので、もう少し絞り込んだ議論に持っていかないと、また去年の会議と同じような経過をたどってしまうのではないかと懸念をるところです。

部会長：前回の部会の資料の、主な意見の分類の中で見ますと、交流という部分については出尽くされていると思います。また、新たにどこかに絞り込みましょうという話の中では、なかなか新しいところが出て来ていないと思います。

委員：全く新しいと思います。ユージン、バーリントンは前に出ていましたが、それ以外は全部新しい都市です。

部会長：4ページの交流の分類の話では、文化交流ですとか、そういうのは前年度の市民会議でも同じような意見が多かったので、共通点があります。

委員：例えば、国の部分を具体的に1つずつ潰して行こうとか、そういう議論ではいかがでしょうか。

委員：もちろんかまわないと思いますし、一つの方法だと思います。

委員：単に皆に聞いても、すぐじゃあこの都市と交流をするという具体的な所まではいかないので、候補を探すために、ある意味、色々な方面からアンケートを含めて実施しているということです。

委員：データが出てきたわけですから、参考にするというのは十分に認識しています。しかし、アンケートの結果で具体的にでてきたのはこれなのですが、これとは別に新たにこのデータを基にして、次の国を探していこうというのは、はたしてこの作業部会として正しいのか疑問です。

委員：主張している所と若干ずれがあると思うのですが、具体的な国名や都市名として表れているのは3ページの表でして、上の2つの都市以外は全部新しい都市となっています。この新しいところが6つあり、これらについては、じゃあこれがどれくらい可能性があるかということですが、確認して行く方法は色々と考えられます。今の所不明だから可能性はないと考えるのではなく、例えば、私でしたらどうするかと言いますと、イギリスであれば、日本にあるイギリス大使館やこちらの領事館にまず問合せをします。日本の東京にはこういう姉妹都市を結びたいと考えている所があり、ここがイギリスとして都市の名が挙がっているが、向こうの意思を確かめられませんか、問い合わせをします。現地に問い合わせをする方法もあるのですが、それはなかなか難しいこともあるでしょう。

それから、その他の意見、5ページの4番の所に書いてあるのが個人的に非常になるほどと思った点があります。何かと申しますと「市民が生涯にわたり、安心・安全に暮らせるよう、福祉・防災・教育等に町ぐるみで取り組んだ実績のある都市と交流・親善を深める。少子高齢社会に対応した全市民参加の活動を、生涯に渡り構築していくため」。つまり、稲城がモデルというか、個々の都市のこう言うノウハウを学びたいというのを見つけるということで、今までの議論ではほとんど出ていなかった視点です。ただ交流を始めるのではなくて、目的意識を持った選び方では、例えばヨーロッパの中にも、良い都市もあるのではないかという見方もできると思います。私は大変注目すべき意見だと感じています。

部会長：この先の議論では、フォスターシティ市からの打診の話もあるので、フォスターシティ市と姉妹都市関係を結ぶか、結ばないかその辺の議論をまず結論付けていかないといけないと思います。それと並行して委員のおっしゃるご意見や、今の色々な福祉・防災・教育等そういうようなものも含めた中で、一緒になってできるような都市を探したらどうかということです。自分としては、フォスターシティ市は、待ちの状態にあるので、姉妹都市関係を作るか作らないか、まずその結論を出していただきながら、他の候補にできる都市についても見つけるための作業を行うということでしょうか。先ほど、委員がおっしゃるように、資料については、無駄にしたくないというのも重々分かります。その辺は並行しながら実施していくことをしないと、何年やっても結論が出ないのではないかと思います。

委員：そんなことはないと思います。

委員：もう打診されているから、結論を出さなければということになります。そうではなくて、いわゆる昨年的一年間においても、そういう打診もあるけれども、もう少し広く、そこで本当にいいのかどうか、それを決定しましょうという形だったと思います。フォスターシティ市と並行してもう一つを対象として考えることだって可能だと思います。

部会長：フォスターシティ市以外の所で、少しあたってみましようというご意見ですが、どこかの具体的な国や都市はありますか。

委員：これから挙げたって良いと思います。例えば、フォスターシティ市がOKであっても、候補が1つの場合と、2つある場合では全然違うと思います。そういう両輪で検討を進め、2つとも対象として考えるという結論だっただけかまわれないと思います。仮に一方が今回決ま

らなくても、例えば東南アジアとかタイの国のこういう都市とやるということを前提として、フォスターシティ市もまたやるという結論でもかまわないと思います。

委員：お二方の話は良く分かるのですが、会の趣旨として、まずフォスターシティ市という話があります。できれば同じレベルまで上がってくればいいわけですが、今はまだ、そのために調査をしている段階です。一番良いのは調査をされた委員が、具体的なもので提案してくれることです。しかし、調査がこうなっているという報告だけでは、いくら言われても、確かに調査はその通りです。やはり仕掛けた人がある程度絞り込んで、具体的に提案していただく。委員の方で案があるならそれを挙げてもらう。そういうテーブルに載せてもらえれば議論になるのですが、片方、フォスターシティ市だけがある程度具体化していて、他の物は見えないというのでは、議論がかみ合いません。部会長が取りまとめようとしているのですが、具体化しているのはフォスターシティ市だけで、他のところの案はあるのだけど、それに対して、委員も自分はこれをしたという案も全然ないので、我々も全然議論ができません。

委員：何か出てきたのを比べて自分が決めるという発想ではなく、この場合は市民の参加でもって、姉妹都市の可能性を色々検討するという事ではないかと思います。フォスターシティ市は市長が行かれたから、ある程度项目的に具体化しています。しかし、それはどこか他の所も行かれれば、そこだって具体化する可能性は十分にあるのです。ですから、全然それはハンディキャップになっていないと思います。それよりも、これから長いお付き合いをする相手をどうやって見つけていくか、そこに市民がどういう風に参加して行くかというのが大きなポイントだと思います。

委員：提案したい人が自分で出して来ればいいということです。

委員：提案者としては、3ページの希望の都市の中に6都市ありまして、わたしが提案した都市も載っています。これを作業部会の中で調べて行きましょとなれば、私は動きます。提案が出てくるまで、委員は「フォスターシティ市だ、フォスターシティ市だ」と言って、ずっと座っておられるのでしょうか。フォスターシティ市はたまたま、去年に市長が行って、また、取り次ぎをする方が一人いたので、一歩二歩進んだわけです。これは、そんなに進んだものではないと思います。

委員：私は何もこだわっている訳ではありません。しかし、良いと言っているのは事実です。ただ、他に挙がってくるなら議論しますというスタンスです。

委員：挙げるような準備をする、そのための市民参加の調査をやったわけです。こういう調査を何回かやって行くうちに可能性の有るところが、だんだん絞られて来ると思います。

委員：全員をまきこんでいくというのですか。

委員：作業部会ですから。そういう事をやるのが作業部会でしょう。

委員：提案する方がある程度やるべきです。

委員：あなたは提案をする方ではないのですか。

委員：私が提案するのであれば、私が調べて、具体的に提案します。ただ、あなたの場合は、アンケートを取って発表しただけだから、これを具体化して提案してくださいというのが私の意見です。

委員：これから具体的にすればいいのですね。

部 会 長：お互いの話は良く分かります。今の委員の言っている3ページに載っている都市について、事務局は、連絡やコンタクトは取れるのですか。

委 員：事務局がとらなくてもいいです。それぞれ、推薦された方がいるわけですから、そういう方に協力をお願いして、進めていくようなバックアップをしていかないと、出てくるまで待つのでは、作業部会として恥ずかしいと思います。

柴田課長：昨年から市民会議で議論いただいている委員さんと、今回新たに加わっていただいた委員さんとで、前年の4回の会議の受け止め方という部分と、若干差があるのかと思います。前回の作業部会でお配りした主な意見分類と、国のリストですが、これは27年度中に4回の市民会議で皆様にご議論いただいたご意見の凝縮版です。国のリストの町の名前自体も、昨年4回の会議の中で出てきて、そして、皆様のご意見を集約した中でリストアップしています。この2枚の資料は非常に重みがあります。今回、ご提案のアンケートを実施しまして、集計の結果というのがありますが、アンケートで出てきた部分では、27年中に話し合っていたいただいたことを念頭に置いた上で考えていただくことが必要かと思えます。

まず一つ、27年度中に皆さんにお決めいただいたことは、海外姉妹都市提携はやろうということで、全会一致で決めていただきました。27年の市民会議からやられてきた議論の部分と決めてきた部分というのは、前提条件として認識をしていただいて、進めていただくのが良いと思います。今回このアンケートで初めて出てきた都市につきましても、必要があればこの国のリストに同じように横並びで入っていくことになると思います。こちらのリストの国が全部消えてしまって、アンケートの国の中から、フォスターシティ市とどうかという事にはならないと思います。同じ検討の候補者として、このリストの中に並ぶとお考えいただきたいと思えます。

委 員：昨年度は、「姉妹都市を提携しましょう」というのは、皆さんの合意で決まりましたが、候補地については作業部会で具体的に検討しましょうということと認識しています。例えば、昨年度、クレアでこういう都市が日本の都市と交流を希望しているというリストももらいましたが、資料が出されただけで終わっています。そのため、具体的にフォスターシティ市の件も含めて、全体としての議論は、この作業部会で検討しましょうということになったと私は考えています。

すぐ決めなければということではなくて、場合によって、少し延ばすとか、検討した上で結論を出すというのは構わないと思います。かつては、中国の稲城県から稲城市に姉妹都市になってくれという提案があり、それを稲城市が保留にして、最終的には、まだ結論を出していませんが、それだって、こちらの方の対応として、その時点でベストな選択なのかどうか、そう言ったことはあると思えます。

部 会 長：来年の3月までの間に、姉妹都市の市民会議が終了するわけで、この作業部会としては、フォスターシティ市と他の候補地をどうするかという中で進んで行くのがいいのか、その辺はどうなのでしょう。

柴田課長：一つに選ぶのか、両論併記で返すのか、という部分は、どちらでも大丈夫だと思います。最終的に作業部会で詰めた集中審議をしていただいて、その決定事項と色々と皆様からいただいたご意見をまた集約をすると思うのですが、その意見を含めて、市民会議全体会の

方に戻していきます。やはり皆さん色々な選出分野から会議に参加されていますので、色々なご意見があろうと思います。作業部会においてもそうであるので、市民会議でも色々なご意見があると思います。一つに絞る形でも、二つ両方で戻す形でも、最終的には市民会議で結論付けるということです。

部 会 長：先ほど、委員の方から、要望があれば大使館などに当たってみたいというお話もあるのでその辺は事務局としてのお考えはどうでしょうか。

武藤部長：時間的な制限というのがどうしても出てくる部分です。結局、今回の作業部会の方でより集中的な審議を投げられたわけですから、議論がまたスタートとなってしまうと、かなり時間を要するという気がします。短い時間でできるのであれば、進めていただくのが一番ですが、ただ、時間がいつまでもあるわけではありません。元々の市民会議に戻して、フィードバックをする必要があるので、例えば、この部会が本当に長くなるのであれば、市民会議へ中間報告をしなければいけなくなります。ただ、本当であれば、もっと短時間に議論を詰めて行って、ある程度の1つなり2つなりの候補地を市民会議に戻せるように進めていただくのがベストと思います。

部 会 長：市民会議が来年度以降あるわけではないのですが、他の候補地など具体的なものがあれば提案していくという場合は、今後もあるのでしょうか。市民会議になるとなくなってしまうのでしょうか。

武藤部長：今後のビジョン、考え方ですが、市としましては、海外との交流を進めるにあたっては、しっかりした組織を作っていくと考えています。役所の中に作っていくのではなく、各市でやっている交流協会のような外部的な組織を立ち上げて、そこをお願いして行くのが一番良いだろうと思います。そうなったときには、どこか決まったところとずっと交流するという訳ではなく、色々なところとの交流が進んで来れば、そこも対象になってくると思います。そのため、今回で決めて全部終わってしまうということではなく、やはり海外との交流は、まずできるところからスタートをして、しっかりとそこと交流をしながらでも、他の所の可能性も、全部なくなるというわけではないと考えています。

部 会 長：いかがでしょうか。

委 員：先ほどから時間がないという話が随分出ていますが、私はまだ時間が半年以上あると考えます。はっきり言ってこの調査も2週間強でやったわけです。この後、少し別な調査も提案をさせていただきたいのですが、そういう形でこの姉妹都市提携に向けての色々な外堀を埋めていくというのは、市民が納得できる形で議論ができる素材を用意することにつながります。それをしないと、ただ、去年やられたような議論では、やはりソリッドなベースがないのです。ただ皆さんのお考えになっている事を述べてそれを集約しただけになっていて、何に基づいてそれを言っているのか、そういうしっかりした物をこういう議論では抑えていく必要があります。本来であったら、事務局及びがそれに加わっていくような専門家のグループがあって、色々な調査をしながら提供して、議論していくというのがいいのですが、そこまでは難しいので、作業部会がそういう役割を担い、我々が持っている色々な知識や人脈などをそこに動員していいと思います。今回の調査は、時間がなかったので報告だけになってしまいましたが、この可能性を一つ一つどう当たれるかということについては、そんなに難しい話ではないと思います。先ほど言いましたように、在外の出

先の機関に行って、「こういう話がある」と言って、「向こうの話を聞いてくれないか」と投げるのと、必ず、何週間か後には結果がもどってきます。そういうことも踏まえながら、具体化して行く方法です。今は、なんとなく回り道しているような気がして、不安だという気持ちも分からないではないのですが、そうでなくて、自分たちが加わって一つ一つの可能性を明確にしなが、フォスターシティ市と同じくらいのものに熟度を上げていくということを皆さんにも協力をしてやっていただきたいと思います。ただ待っていて、熟度が上がったものが出てきたらという話ではなく、ひと月もあれば大変なものができると思います。ですから、あまり時間がないという不安を感じずに、むしろあと半年あるので、こういう良いチャンス、議論の行われるチャンスに色々調べて、市民の実態や稲城の持っているポテンシャルにどんな可能性があるのかということを出して行く準備をして、ディスカッションできたらいいと思います。作業部会というのは、どちらかというと、手足となって、あちこち調べ回ってきたりして、必要なデータを集めてくるという位置づけで良いかと思います。

委員：今回、受け身で参加してしまったことを、少し反省してしまったのですが、次回がおそらく1か月後くらいに開催されると思います。それまでの間に、今日出てきた分と、前回リストアップされている分とを、それぞれに調べたりして、自分はフォスターシティ市以外の二つぐらいを良いところがあれば、出したいと思いました。私が青少年育成の立場か親御さんが子ども達を安全に行かせられるという視点で、一番は、できれば短い時間で行けるという時間的なものが重要と考えます。次回の会議では、そういう視点で、内容も見ながらリストアップできたらと思いました。

委員：先ほど事務局からお話しあった通り、やはり、平成27年度の市民会議の意見分類一覧の資料が叩き台になった議論が良いと思います。候補地を選ぶにあたっては、選定条件は全てここに網羅されています。あとは、過去の交流実績があるか、きっかけがあるかどうか、こういったところの議論で絞り込んで行くということしかないと思います。今、委員が言っている、こういう国々があるという議論も、27年度の議論の結果を踏まえて、もう少し絞り込んでいくという方法はどうかと思います。各委員のお話は、聞けば聞くほど夢のある話で、本当に魅力的なので、それは私も十分分かっているのですが、できれば車の両輪ではありませんが、こういう議論というのは、ある程度継続的に続けるのが良いと思います。非常に夢のある、稲城市にとっても良いことだと思いますが、現実的な話をして恐縮なのですが、両輪として考えるというのが、1つの案かと思います。

部会長：結果的にはこの作業部会の中では、候補地としてはフォスターシティ市と、それに代わるものがあれば、並行してそれも市民会議へ持っていくような形で良いでしょうか。

委員：あとは、候補地をどう絞り込めるかということです。

委員：提案者である2人方から、具体的な都市が出てくれば一番良いと思います。

委員：あと何回会議をやれば何か出るのかというのが、皆様が心配されているところだと思います。これについては、都市を絞り込んで行く過程が、市民会議の開催と、作業部会の開催とが、上手くプログラム化されれば良いのだと思います。これは基本的に事務局との話になると思います。何回かやれば、何か出るという考えではまずいということだと思います。また、今から少し時間をいただいて、調査の提案をさせていただきたいと思います。

さらに、どういうスケジュールになるかについても、事務局の都合もあるでしょうから、どう調査結果を落としていけるかを相談したいと思います。もし、調査が十分だとお考えでしたら、話は別ですが。

武藤部長：調査というのは具体的に資料などはあるのでしょうか。

委員：配布をいたします。

〔委員の資料を配布〕

本日ご報告した調査の実施に関して、先日、部会長と事務局と打ち合わせをした際に、少しお話しした追加の調査案になります。一枚目の図は、姉妹都市を結ぶにあたって、稲城が持っているポテンシャルを概略的に理解するための図になります。左側が稲城市、右側が外国都市です。今回の調査と重なるところがあるのですが、稲城市の中には、海外経験を持つ市民がかなりいます。それから、個人だけではなく、企業、団体でもそういう交流があります。これらの実態をなるべく把握して、それを議論に反映したいというのが第1です。

また、それと同じくらい重要なのが、1,000人を超える外国の人達、かなり長期に在住している方もいますし、滞在して帰らない人もいます。この、内なる国際化と言われている稲城市在住の外国人の実態は、数字としては出ていますが、どこから来て、どういうことを考えていて、母国である外国都市と、将来、その人たちが稲城との関係を長期的に結んだ方が良いところがあるかどうかということ調べます。

それから、左の部分は、直接は海外との交流経験がなくても、これから姉妹都市交流を通じて、海外へ出て行ったり、海外から来た人と付き合いを始めるような、国際交流の対象者たちで、これが姉妹都市の受益者と考えて良いのかと思います。大人たちは、技術、スポーツ、文化活動、ビジネス、経済、行政と、こういう分野での色々な接触の可能性があります。子ども達は、学校、教育交流、スポーツ、文化活動などがあります。こういう人たちが長期的に受益して行くようなイメージを考えて、国際化、姉妹都市関係というのを結んでいく必要があると考えています。

次のページは、稲城市がどのような資産を持っているかというところで、著名人としては、ガンダムのメカニックデザイナーである大河原邦男さんが住んでいます。また、かつて住んでいて今は日野市にいますが、浅田次郎さんがいました。浅田次郎さんは、稲城市をベースに小説を書かれて映画化もされているように、文化的な資産もあります。スポーツクラブとしては、読売巨人軍もあれば東京ヴェルディや日テレベレーザというプロのスポーツチームもあり、これにアマチュアのスポーツ団体もつながってきます。文化活動も、稲城フィルハーモニー、市民オペラ、稲城合唱協会、それから鼓遊とか、稲城市芸術文化団体連合会、稲城市舞踊連盟の方など、こういう文化活動をやっているところがあります。教育・教養としては、ICカレッジ、これは調査の対象になりましたが、駒澤学園、若葉総合高等学校、市立小・中学校。地元特産品としては、梨・ぶどう。主要企業としては東証一部上場企業が4社あります。交通も京王線、JR南武線それぞれ3駅ずつあり、周辺のスペースも含めて資産になります。主要な施設としては、よみうりランド、多摩サービス補助施設、温泉、ゴルフ場など、様々なものがあります。最後に、自然・環境としては、多摩川があり、南山というあまり手の付いていない自然もあります。こういう稲城市の資源

を将来国際化によって、色々な形で活用して行けるような、そういう全体像を描かないと、交流のイメージは、全体として浮かばないのではないかと考えています。

3ページは提案なのですが、作業部会で調査をした方が良いと考えまして、3つほど調査を提案しています。まず、外なる国際化ネットワーク調査ということですが、稲城国際交流の会会員を対象とした調査は今回実施しました。稲城 IC カレッジを対象としたものも実施しました。さらに、これと同様の調査を、市民会議を参加している色々な団体を通じて、それぞれの団体で海外経験がある方、意見を持っておられる方に、調査をやったら良いのではないかと考えています。これら調査については、部会の了承も必要ですが、是非、進めたいと思っています。これが外なる国際化で1つ目の提案です。

第2としては、稲城に住んでいる外国人を対象とした国際化ネットワーク調査ということで、これは中央公民館で日本語教室をやっていて、20名くらいの生徒がいますが、こういう方を対象に、まず小さく調査をして、その後に、稲城在住の外国人約1,000人の方々を対象に、どのくらいの方が実際の対象となれるか、方法なども工夫しなければいけません、是非やってみたいと思います。

第1の外なる国際化の調査については、4ページに調査票を付けていますが、これは既に実施済みです。第2の内なる国際化ネットワーク調査については、6ページが調査票になります。内容としては、稲城市在住外国人のネットワーク調査として、「あなたご自身の現在の状況について」と「出身国で、稲城市と姉妹都市を結ぶと良さそうな都市がありますか」という形になっています。

それから第3としては、これはかなり現実的な必要性があると思うのですが、海外交流を既にやっている団体がどのくらいあって、どのような活動をしているのかというのを基本は組織を対象にして調べたいのですが、著名人については個人でも構わないとしています。調査票は7ページになりますが、どんな活動をしているかという活動内容についての質問と、一番最近海外交流をやったのはいつ頃で、どんな内容の交流をやったのか、例えば、海外から来た人を受け入れて、ホームステイをしたとか、合奏会をやったとか、そういうことで構わないのですが、最近の内容、その前の内容、初回の内容という3回分の内容を質問したいと思います。なお、3回分の交流を聞けば、内容は十分に分かると思います。なお、今までの調査では、1年以上の長期滞在をしたことがあるということで聞いていたのですが、この調査は、短期で行き来しているものも対象としているため、文化グループ、スポーツグループなどの交流などもかなり出てくると思います。調査対象は、著名人、主要な企業、教育機関、学校、スポーツ・文化団体、公的な施設でそういう交流をやったことがあるかを、2ページ目の資産リストを見ながらやってみてはどうかと思います。

こういう情報を総合して集めると、稲城の国際化の実態がどうなっているのかという事が上がってくるはずですが、その内容を踏まえた上で色々な議論をしていかないと、個人の限られた経験の中で発言を繰り返しても、実際に議論が深まって来るとは思えません。それを含めて、フォスターシティ市がどういう位置付けになって来るのか、また、他の可能性がどういうところから出てくるのか知るための背景調査として位置付けて、この3つの調査を提案します。ちなみに、1つ目の調査については、既に実験的には行われたわけで

す。

部 会 長：新たな調査が出てきましたが、事務局としてはどう考えますか。

武藤部長：今までの話では、今回、特に候補地の可能性を議論して行かなければいけないという話だったと思います。そのため、それをどのように今後進めていったら良いのかというご提案があると思っていました。今のご提案の調査については、腹案としてお持ちだということは前に見せていただいていたのですが、今回この議論の中では、今出ている候補地をいかに絞り込んでいけるのか、対象となり得るのかということを第一に決めて行かなければいけないと思います。

また、全体的な国際化ネットワーク資源、外なる国際化、内なる国際化というのは、すぐどこでも言われていることですが、今検討している海外姉妹都市は、市民全体が参加して行うものです。どこの都市と、どんな交流をしたら、市民全体を交流対象としてできるのかということを議論をしていただいています。この内なる国際化というのはすごく重要なことだと我々も認識しているところではありますが、これはどちらかと言いますと、市民の中に非常に外国人が多くいる都市、例えば、中小企業で海外から労働者が来ているとか、大きい企業でも労働者として来ているというような都市などでは、非常に市内にいる外国人の方と日本人の方とがいかにコミュニケーションをとって、市政をしっかりとやっていくのかということの中で、内なる国際化ということがすごくクローズアップされています。稲城市でも1,000人を超える外国人の方がいますが、稲城市の場合は、課題になっていることとは少し違うのかとされていて、特に、今回、海外との姉妹都市との交流をどこと、どういうことで結ぶのかという議論とは少し質が違うものと思います。海外姉妹都市を決める段階において、内なる国際化というのは、一つ置いておいて、後からでも十分に、その部分は議論できると思います。そのために国際化協会のような組織を作ったりするわけですから、そうすれば、内なる国際化、市内に住んでいる外国人の方がそこに来て色々と情報交換をしたりということもできるはずですから、そういったことも可能でしょうし、今回の議論とは少し違うのかとと思っています。それから、企業へのリサーチや色々な組織へのリサーチということですが、まず一つ目のこの市民会議に出ている団体については、去年の段階で、色々なご意見をいただいて、もう出尽くしています。色々な今まで行ってきた事業の内容などをお聞きしていますし、色々な意見をいただいている中で、資料の中にあるような形で議論は出尽くしていると考えていますので、敢えてそこに、調査を行うのはどうかというのも一つあります。また、団体の交流につきましても、それぞれの団体は、それぞれの存在意義があって、その目標に向かって活動されていますので、その活動に特化した交流、例えばスポーツでラグビーをやっているということであれば、ラグビーの交流というように、特定のスポーツや文化の中でのお付き合いというのはたくさんやられているかと思いますが、それが市民全体の国際交流にどこまで結びついてくるのかというのは少し思います。この調査については、実施することによって、海外姉妹都市との交流ということと結びついてくるのかというのが少しどうかと思うわけです。いずれにしても、今回、議論はやはり、ある程度絞り込んでいかなければいけないと我々も思っていて、まずやらなくてはいけないのは、今回挙がってきているこのいくつかの都市についての可能性を、挙がるのか、ダメなのかというのを見極める必要があると思います。

まずそこをメインにしたら良いと思います。

部 会 長：今のお話ですと、資料5 調査結果の3 ページで、このような都市がどうかという内容を検討してみてもどうかということですね。

武藤部長：先にそれをやらないと、どんどん話が広がってきてしまいますので、まずそこを潰して行かないといけないと思います。

部 会 長：その辺は、事務局は実施できるのでしょうか。

武藤部長：我々も全くネットワークがないところですので、逆にご経験のある方に、どんなことができるのかということをご提案をしていただくのが我々としては助かる場所です。

部 会 長：委員はデータをほとんど見ておられて、どこからのどういう回答かご存知だと思いますので、事務局の方とある程度その辺りは詰めることができるのですか。

委 員：8つの候補として、2つのユージンとバーリントンは昨年度のリストと重なっていますが、新たに出てきた6つについて、これをもう少し熟度を高める作業をどうするかという話です。私がやって行くとなれば、先ほど申し上げた通り、向こうの出先機関に感触を探るといのが一つ、一般的にこういう市については溢れるほど情報がインターネットを通じて得られますので、私が提案しましたイギリスのスウォンジーやハンガリーのセンテンドレについては、人口、面積、どういう施設があって、何が特徴かという一般的な情報でしたら、2、3日中にも出せます。それから、出先に訪問して、そこを通じて色々と調べてもらうことも可能だと思います。最初の感触くらいでしたら、1週間か10日くらいで、可能だと思います。要するに、出かけて行って、そこを話をするのが基本になります。

併せて、第1回目の部会の資料で出していた、6つの市については、交流実績があるので、その部分はそろっていますが、これらについてもやはり向こうの感触を聞かなければいけないと思います。そうするとやはりコンタクトを取れる出先機関、在日の公館なりを訪問して、こちらの意思を伝えて、可能性もどうしたら探れるかを相談して聞かなければいけないと思います。

委 員：前回の作業部会のお話の中で、こちらのリストについては、ほとんど可能性はありませんでした。タイについても、個人的なつながりだけの話であって、今現在はないはずですが。私も教育委員会にいますけれど、この辺の情報は全くいただいていません。

委 員：ネットを通じて確認をすることはできないのでしょうか。誰が関与されて、今いないのかというところ。

武藤部長：前の教育長の個人的なつながりであったと聞いています。

委 員：組織的な事ではなく、団体ごとに交流を担当された方が残っている可能性はあります。

武藤部長：その後の交流をされているという情報は全くないところでは。

委 員：残る部分で考えられるのは、稲城国際交流の会さんのバーモント州のところと、稲城県のところでは。こちらは国際交流の会さんの範疇だと思いますので、その辺を潰していくくらいしか考えられません。

委 員：ユージンも今回あがっています。

柴田課長：ユージンの関係については、前回の作業部会のときに委員からお話がありまして、東日本大震災を契機に、いままで交流していたにも関わらず、こちらからいくら連絡をしても音信不通になってしまっていて、少しそぐわないということです。

- 委員：教育委員会の事務局から聞いています。
- 部長：いずれにしても、先ほど3ページについて相手先の意思の確認は、事務局の方ではある程度やっていただけなのか、できないのか。委員さんなどと一緒になってやれることがあるかという中で見て行かないと話がそこで止まってしまいます。
- 委員：この国が果たして過去にどういう交流の実績があったのか、どういうきっかけで、名前が出てきたのか、それがこの資料に書かれているだけでは分かりません。
- 委員：発案された方に聞いてみないと分かりません。
- 委員：姉妹都市の可能性についても、無記入や不明が多いです。
- 委員：今の時点ではそうですが、それを精査していくために、発案者に住所や連絡先も記載してもらっています。そういう作業を部会として実施することを承認いただきましたら、事務局と相談して、私は私で、もちろんできる範囲でお手伝いはさせていただきます。もし、止めましょうという話になるのであれば、そこで止まってしまうのですが、もう少し進めて行くということよろしいのでしょうか。
- 部長：時間的な関係もあるので、事務局の考えはどうでしょうか。作業部会で将来的にどこまで進めたいか、その辺もある程度お考えを示していただかないと、我々も時間の期限がなければ、いつまでもやっていけるのですが、その辺も検討していただきたいと思います。時間もないので議題の2に進んでよろしいでしょうか。
- 委員：次回までに、具体的にこの国のこの都市はどうですかという形で案を出すということよろしいでしょうか。
- 委員：それは、あくまでも27年度のたたき台を基にした候補地の選考という条件に基づいたものであって欲しいです。そうしないと27年度に議論した意味がなくなってしまいます。全くきっかけの無いところから探り出してくるのではなくて、やはり市民とのきっかけがあったところから探り出してこない、結局、候補地を決めるにあたっては、こういう条件、過去の交流実績やきっかけがあったり、というのを条件に英語圏とか、色々ありますが、これは27年度の議論の結果なので、ですから、これを基本に考えて頂いた方がよろしいと思います。
- 委員：交流実績があるかないかと言っても、全体的にはこの考え方には沿った都市であればよいでしょうか。
- 委員：ただ、まったく今まで聞いたことのないところでは困ると思います。稲城市と過去に関わっているというのが一つの説得力というか、整合性になるのじゃないでしょうか。もうインターネットから新しい情報を引っ張り出すというのは、少し無謀だと思います。
- 委員：仮にインターネットから出しても、条件に合えばいいのではないのでしょうか。
- 武藤部長：それを選んでも稲城市と姉妹都市を結ぶ意思があるのかないのか、という部分をどうやって把握したらいいのでしょうか。そこがやはり一番のキーで、こちらから選びました、どうですか、と言っても、そこが進まない、と厳しいと思います。やはり向こうが稲城市のことを分かっていたら、相思相愛でないと繋がりませんので、向こうが稲城市に好意を持ち、稲城市を分かって、稲城市と姉妹都市を結びたいという意思を確認できないと、俎上に上らないのかと条件的に思います。
- 柴田課長：いま皆さんから様々なご意見をいただきまして、前回お配りした国のリストと同じように

横並びで並び得るのかどうか、という部分であると思います。実際に作業部会で皆さんに話し合っていて、今、委員より意中の都市があつて、それについて提案をいただき、また、別の委員からも少し勉強して2つ3つをご提案するというお話がありましたので、もし事前にそういうものがあるのであれば、作業部会で皆さんでご議論いただく前にご連絡をいただき、リストの一覧に並べるイメージで進め、それをベースにご議論いただければいかかと思ひます。委員の絞り込みの話もありますので、できましたら、次回の作業部会の2週間程度前までに、事務局に情報をいただければ同じように横並びに整理して、皆様に作業部会として話し合っただけのような形で、提供をできればと思ひますがいかかでしょうか。

部 会 長：よろしいでしょうか。

委 員：事務局に質問ですが、今回新たに6ヵ所挙がってきていますが、これについても向こうの意思は今の時点では分かっていません。これは確かめなければいけないのですが、確かめるためには何ステップか進まなければいけません。その際に、例えば、稲城で姉妹都市の可能性について検討を市民会議でやっていると、その過程の中でチョイスをしたところ、いくつかの都市が挙がってきました。あなたの都市もあります。つきましては、向こう側の意思を確かめたいのだけど、というやり取りをしなければいけません。そのような作業を進めるために必要な、1枚の紙でもいいのですが、そういうものを市として発行することはできますか。

柴 田 課 長：どういった内容のイメージをお考えでしょうか。

委 員：今こういう形で市で市民参加で議論しています。ついでに、そこで挙がった候補の都市に感触を確かめたいので、そういう可能性を聞きたいというような形です。いくつかの青島とか香港とかそういうところにそれぞれの出先があるので、あたって話をしなといけません。市の方が行っていただくのは大変だと思うので、たぶん紹介された方をお願いして、行くのが一番良いのではないかという気はします。ただ、手ぶらで行って、私は稲城市民で来ましたということにはなりませんので、検討市民会議であったり、その名前で、そういうものを発行していただけますでしょうか。

柴 田 課 長：海外姉妹都市を検討していて、現在様々な都市の可能性を検討している。そのことで、今伺っている人は、その関係で調査しているというような証明のイメージでしょうか。そういった部分であれば、お出しはできます。

あとは、先ほどお話をしていた、皆さんから都市についてのご提案をいただき、それを先にお配りした都市のリストと同じように並べて作業部会で検討できるように整理するという部分ではありますが、こちらの皆さんから提案をしていただく市というのは、先方の意思まで確認ができていない段階ではないと思ひます。そのため、進めていく部分は進めていくのでよろしいと思ひますが、まずアンケートで挙げていただいている市について、提案者に確認を取って、かなり程度に差があると思ひますが、中華民国、未定、不明、特になしとか、横並びにアンケートの結果が載っていますので、実際に作業部会の皆さんで話し合っただけに足る内容なのかどうかという精査をして、お出しする段階でよろしいのではないかと思ひます。

委 員：先方の感触はまだ確認しないでもいいということでしょうか。

柴田課長：皆さんからご提案いただくのは、そこまでの段階には届いてこないと思いますので、そのような形でいかがかと思います。

委員：これは時間がかかります。公館などを通じて向こうに問い合わせしてから返答をもらうのですから。もしやるなら、早めに手を打たないといけません。やりましょうという段階から始めて、1カ月、2カ月経つようになってしまうと、それこそ遅れの原因ですから、早くやった方が良いでしょう。

委員：今議論しているのは、すごく大事な物なのですが、確認とれないものを我々のテーブルに上げて議論しても全く意味がないです。今は、フォスターシティ市と、他の議論しようとしているもののが、同じテーブルに乗ってはいません。調査をしようという段階だから、全くかみ合っていないのです。だから、議論に挙げるのだったら、ある程度、向こうの感触や、誰かキーパーソンを知っているとか、何かのきっかけがあるとか、そういうことで挙げてもらわないと、話を進めても、最終的に相手先から断られてダメでしたとなりがちです。前にも言った通り、提案者がある程度の裏付けを取って、自分の言葉で提案してくれば、我々も議論に乗るのだけれど、それが不確定だと、議論しても意味がありません。

委員：今のような話ですと、フォスターシティ市しかないというお考えということでしょうか。フォスターシティ市については、市長が行って確認したから、ある程度リアクションがあったわけです。まあ、フォスターシティ市よりずっと以前から、稲城県からは要請があって、市から断った歴史があるのですが、いずれにせよ、作業部会として提案者が調べるということで良いのでしょうか。作業部会というのは、フォスターシティ市が出てきて、議会で色々あって、少し戻されて、こういう市民会議が開かれたと理解していますので、その議会の方も説得できるようなフォスターシティ市ありきではなくて、それ以外の可能性も揃えて、持っていかないといけないと思います。フォスターシティ市をやるのを委員は待っているおつもりですか。

委員：フォスターシティ市については、内容が具体化しているから議論ができるということです。現在では、他の候補地についてはアンケートを取った段階でしかありません。今我々は姉妹都市を結ぶ相手を探しているわけです。その目的とやっていることとで、距離があり過ぎていて、それを埋めることをイメージできないから皆さん不安になっているわけです。

委員：イメージを見えるようにするために、我々は調査をして、こういう候補を出しているわけです。市長は行きませんので、並ぶという程にはならないかもしれませんが、向こうに関心があるかどうか、ある程度確認するための努力を、作業部会でしましょうということです。作業部会は、ただ座っていて、事務局が用意した物を良い悪いと言うという話ではないと思います。我々が、議論しながら作っていくことをしないと、去年と同じになってしまいます。

部会長：比較対象をしながら進めたいという考えだと思います。本来であれば昨年こういう事やっ行って行かなければいけない状態だったのです。昨年そういう委員が仰ることをどんどんやった挙句に、こういうことですよという結論付けを持っていけたら良かったのですが、去年まではそういうことをやっていませんでした。

委員：なぜやってこなかったのですか。

委員：やっていなかったのではなく、実際には、委員の人数が多くて、そういったこと自体、皆

の感想はどうですかと聞いただけで終わってしまい、最終的には皆で「姉妹都市を結んだ方が良い」という結論だけが決まりました。具体的にどう相手を決めるか等、そういったことについては、作業部会で全部進める、そういう話だったと思います。

部 会 長：作業部会も3回という回数の中で、また、来年3月までに、結論付けていくという中で動いているので、委員がおっしゃるようなことで、どんどん調査ができて、ある程度具体的な所まで持っていければ一番良いのですが、このまま行くと、作業部会では何の結果も出ないまま、全体会議に持っていくような形になってしまうと思います。

委 員：作業部会は月一回ペースで開いたとして、その日に出てきて意見を言うのが仕事ではないと思います。そうであれば、実質的な議論は2時間くらいの時間しかないわけです。しかし、例えば我々は、今日報告した調査をするために、8月11日の発送の準備から、回収、集計、分析、市の方もやってもらいましたが、我々としてもかなりの時間を費やしてやっている訳です。そういうことを皆さんにもやっていただいて、そして詰めた結果を市民会議の方に持っていくようにしないと、関心のある方、意見のある方がやってくださいという話では、作業部会ではないですね。作業がないと思います。ですから、口だけの参加ではなくて、やはり自分たちがこの機会に調べて、先ほど委員がおっしゃられたように、候補を2つ持ってきましょうと、これは素晴らしいと思います。それはちゃんと向こうの確認を取れたところまではいかないと思いますが、その前段階でも良いと思います。そういうものが合わさって行って、最終的にフォスターシティ市と並ぶようなレベルに到達するのではないかと思います。何もやらなければ、何も進まないとは私は思います。部会の進め方自体が非常に疑問に思います。

委 員：作業部会のステップとして、海外のネットワーク調査をやった方が良いという意見があり、やっていただいて、ひとまず絞り込みができた訳です。まずここから第1ステップとして進めて行った上で、必要に応じて次のステップに行くのが良いと思っていて、そうしないと、どんどん守備範囲を広げていってしまい、どうかと思います。

委 員：私としてはそう考えていなくて、ここに出した3つの調査がある程度並行して進み、それぞれがある程度出来上がってくれば、これが市民像として、市民の海外の持っているネットワークという形で把握できると思います。今、市民会議では把握できていないのです。何処に行って、何をやっているのか、どんな意見を持っているのか、全然調査していません。そういう事を知らずに議論しているのは、非常に意味不安です。

委 員：個人で姉妹都市を結ぶわけではありません。個人の関わりだけではなく、行政との関わりがその都市にあるかというのが、そのネットワークから探していかなければいけません。果たしてそれが、どの段階で、どの時期でできるのか、この辺が見えないのが私としては不安です。

委 員：よく分かります。日本の姉妹都市の考え方は、フォスターシティ市でも違っていると思いますし、各国なんかは、姉妹関係を多角的に結んでいるところもあり、日本からそういう声があれば、割合、リアクションは早く出ると思います。ゼロから始める訳ではなく、そういう意味で、感触を試してみたらどうかと思います。稲城はすごく魅力的な所をたくさん持ったコンパクトな町なので、稲城市を相手にしたいというところは客観的に見てたくさんあると思います。ですから、そういう中でのネットワークをいくつか結んでいけるよ

うな下地が今回の議論の中で出来上がったら、大収穫だと思います。フォスターシティ市ありきという話ではなく、このチャンスをどういうふうに姉妹都市を将来結んでいくためのベースにできるかということをは是非やっつけていかないと、次の話が出たら、またゼロからやるというのは、もったいないわけです。

部 会 長：議論はまだまだ尽くしきれない部分が多いですが、議題2の方に移らさせていただきたいのですがよろしいでしょうか。

<「はい」という声あり>

【議題2】フォスターシティ市についてについて

部 会 長：それでは、議題の2『フォスターシティ市について』。事務局より、説明をお願いします。

柴 田 課 長：資料の7をご覧ください。

〔資料7『フォスターシティ市の意向について』に基づいて説明〕

部 会 長：フォスターシティ市としてはまだこちらの結果待ちだということですね。キーパーソンの方もいらっしゃるの、その辺の連携については上手くいきそうということですね。

柴 田 課 長：先方の窓口もしっかりあります。稲城市側の事情で一回中断していただいている部分がございますので、今回、また新たに意思の確認ができたのですが、中断、というのはいつまでもというわけにはいかないだろうと思います。

武 藤 部 長：いつまで待っていただけるのかということなかなか聞けないところであります。今回は在サンフランシスコ日本国総領事館を通して聞いていますので、正式な回答と捉えています。

部 会 長：是非という話であるならば、並行して進めていかないといけないと思います。これについては、皆さんどうでしょうか。

委 員：これはスティーブ岡本さんからのお手紙ということですか。

武 藤 部 長：スティーブ岡本氏がこう言っていたということ、フォスターシティ市との窓口になっていただいている向こうの副領事の方を通して、メールでいただいたものです。

委 員：他の都市を候補にする場合も、やるとすればその程度のレベルまでは最終的に確認できないといけないということですね。

武 藤 部 長：いけないというわけではなく、市民会議に上げるには、このフォスターシティ市は挙がるわけですが、他も同じように上げていくには、市民会議の中で議論ができる状態にあるかどうかということですね。

柴 田 課 長：前回の作業部会で決まりました、並行して議論して行く候補地になり得る所という部分にあるように、フォスターシティ市と並べて議論ができるようなものにするということですね。

武 藤 部 長：要するに、こちらからどう望んでも、向こうが望まなければマッチングできないので、そういう意味です。

部 会 長：その他ご意見はございますでしょうか。

委員：スポーツ交流と学校交流の二つの内容が出ていますが、スポーツ交流について、野球、サッカーと書いてあって、ヴェルディとか日テレベレーザの名前も出ていますが、少しレベルが違うのかと思います。

武藤部長：直接試合をするということではなく、クラブチームとの交流もできるのではないかということです。例えば、市内に稲城長峰スポーツ広場という施設がありますが、そこはヴェルディとオーエンスという会社に共同で管理をしてもらっています。その中では、色々なスクールなどもやっており、そういったところにヴェルディの選手が来て指導をするメニューも今後出てくるとお思いますので、交流の中でベレーザの選手に指導してもらえるような機会であるとか、そのようなことができれば良いというご希望も言っていました。女子がサッカーをメインにやっているということですので、イメージとしては、そういった子たちとプロチームとの交流が出来たら素晴らしいという話も言っていました。

委員：次の学校交流ですが、具体的にこのようなことという話がありましたでしょうか。

武藤部長：話の中では、インターネットでの交流、グリーティングカードでの交流、お手紙での交流などがありました。もちろん現地に行く交流の話もあり、それぞれの学校に入るシャドースチューデントの話がありました。シャドースチューデントとは、例えば、アメリカに行ったら、アメリカのスクールにそのまま日本人の子が登校し、ただ座って見ているだけでいいそうです。しかし、それだけで、授業のやり方から何からすべて違うので、ものすごく刺激を受けるということです。逆に日本へ来た場合にも、その子たちが日本の学校に来てシャドースチューデントをやるということです。そういうことも、既に、日本の都市とアメリカの都市とでやっている例があるそうです。

委員：大勢の学生が行ったり来たりということではなく、小さい人数でもそういう形で交流もできるということですね。

委員：まちづくり的には参考になるところはないですか。

武藤部長：ニュータウンの新しい町なので、どんどん新しく住宅も作っています。北カリフォルニアの商工会議所もあるため、日本の商工会が交流するということもあると思います。また、農業は今はありませんが、北カリフォルニアはぶどうの産地で、ワインもフランスを抜くくらいの世界的な産地になっていますので、そういった交流なども可能かと個人的には思いますが、そこはフォスターシティ市との交流というわけではなく、フォスターシティ市を足がかりに、広い範囲でお付き合いもできるのではないかと思います。

部会長：議論が尽くされてはいないと思うのですが、議題3に移りたいと思います。

【議題3】次回の開催について

部会長：それでは、議題の3『次回の開催について』、事務局より説明をお願いします。

井田係長：次回、第3回の作業部会は、1か月程度後の開催を予定しています。

<日程調整>

それでは、9月29日（木）夜7時からの開催として予定をさせていただきます。正式な通知は、後日、改めてお送りさせていただきます。なお、ご都合がつかなくなった場合などは、事務局まで、お電話でご連絡をいただければと思います。よろしくお願いたします。

- 部 会 長：本日長時間にわたり、ありがとうございました。これからまた、第3回までに事務局の方で今日の議論を踏まえて、また次の議題を上げていただきたいと思います。
- 委 員：次回は何をメインでやるのでしょうか。準備と用意をするためにも、次回のテーマを教えてください。そうすれば、皆も考えてくることができます。
- 委 員：一つは、今回どのような都市をリストアップするかということだと思います。
- 武藤部長：どこまで絞り込めるかということです。
- 委 員：ある程度リストを作った物を、事前に皆さんに送って、そのことについて皆さんにご議論いただきましょうということではないでしょうか。
- 委 員：現実的なきっかけと関わりがある物に絞り込んで行かなかったら、全くもって白紙の状態から、さあどうでしょうという話だと、また、話が進まなくなってしまうので、現実的に可能性のあるところにして下さい。
- 委 員：ゼロベースでもいいのか、ゼロベースではダメというのか、そういう事を指摘しておかないと、話がまた横の所に行ってしまいます。
- 武藤部長：ゼロベースの話では収拾が付かないので、ある程度のビルドアップできたものをご提示できるように事務局としては、最大限努力して行きたいと思います。
- 部 会 長：それでは、これで第2回稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会を終了いたします。